

第2章 青森県ロジスティクス戦略の成果と課題

1 取組実績

本県では、2014（平成26）年1月に「青森県ロジスティクス戦略」を策定し、ロジスティクス基盤を中長期的な視野の下に育成・整備し、国内・世界との経済交流の拡大をめざした取組を推進してきました。本戦略を策定するに当たっては、これまでの5年間の取組を総括し、評価、検証した上で、次の5年間につなげていくことが重要です。

これまでの5年間の取組を整理すると以下のとおりとなります。

【産業力強化に係る取組】

取組 1	物流・流通事業者などによる輸送プラットフォームの構築
取組 2	各種輸送トライアルによる物流課題の改善と新たな流通経路の確保
取組 3	地域における共同輸配送に向けた取組の支援
取組 4	ロジスティクスに係る人材育成・企業支援
取組 5	輸出における最適な輸送手段の検討と具体化の支援

	取組 1	取組 2	取組 3	取組 4	取組 5
平成 26年度	H26.7.24 ヤマト運輸(株)と連携協定締結 H26年度 A!Premiumのスキーム構築				
27年度	H27.4.27 A!Premium流通サービス開始	平成27年度青森県モデルシフト可能性調査実施	商工労働部と県土整備部による「物流関連立地検討チーム」設置	○A!Premium利用説明会の開催・企業訪問 ○海外見本市等への出展支援 ○定期的なサプライヤーへの訪問（バイヤーニーズの提供など）	（再掲） H27.4.27 A!Premium流通サービス開始
28年度	H28.4.1 港湾空港課大阪分室設置 H28.12.20 青森銀行、みちのく銀行、ヤマト運輸(株)との連携協定締結	平成28年度青森県モデルシフト可能性調査・輸送トライアル（J R貨物、RORO船 ^{*15} の利用）実施	○物流の効率化、高付加価値化等に係る県内企業のニーズ調査等実施 ○「物流イノベーションフォーラム in 青森」の開催	○A!Premium利活用セミナーの開催 ○A-Factoryにおける台湾向けのお土産便のスタート	（再掲） 平成28年度青森県モデルシフト可能性調査・輸送トライアル（J R貨物、RORO船の利用）実施
29年度	H29.4.20 (株)ワールド・ワンとの連携協定締結 H30.3.1 尹達剛氏を青森県「A!Premium」食材PR大使に委嘱	○J R貨物による独自営業の強化 ○上組による八戸港への定温倉庫の新設	○「青森県戦略的物流連携ビジネス創出事業費補助金」創設→共同輸配送、3PLで実績あり ○「青森県物流連携セミナー」の開催 ○大規模物流関連展示会への出展	○小ロットに対応した商社との連携強化 ○木造高校との連携による海外販路開拓（マレーシア）	平成29年度青森県産品に係る海外輸送手段調査・輸送トライアル（青森～ソウル線を活用した香港への輸出）実施
30年度	H30.4.1 港湾空港課大阪分室1名増員		○「青森県戦略的物流連携ビジネス創出事業費補助金」継続 ○「青森県物流連携セミナー」の開催 ○大規模物流関連展示会への出展	○木造高校との連携による海外販路開拓（香港）	○YNA（ヤマトナチュラルエアカーゴ） ^{*16} を利用し、シンガポール向けに中ロット ^{*17} の輸出トライアル実施 ○その他各種輸送トライアル（輸出向け）実施

【物流拠点化に係る取組】

取組 6	物流インフラの整備
取組 7	効果的なポートセールス ^{※18} の実施による定期航路の充実
取組 8	北米航路や北極海航路の本船寄港可能性の継続的研究

	取組 6	取組 7	取組 8
平成 26年度	H26.11.3 津軽自動車道・五所川原 I C ー つがる 柏 I C 間 開 通		○A I S データ ^{※19} を活用した津軽海峡の可能性調査（北米航路）実施 ○衛星 A I S データを活用した北極海航路を航行する船舶の航行実態把握調査実施
27年度	H27.4 八戸港 L N G 輸入 基 地 運 転 開 始	H27.10 八戸港 韓 国 航 路 開 設	平成27年度衛星 A I S データを活用した北極海航路航行船舶の実態把握・分析調査実施
28年度			平成28年度衛星 A I S データを活用した北極海航路航行船舶の実態把握・分析調査実施
29年度	H29.11.15 下北半島縦貫道路・横浜吹越 I C ー 六ヶ所 I C 間 開 通		平成29年度衛星 A I S データを活用した北極海航路航行船舶の実態把握・分析調査実施
30年度	H30秋 八戸港国際物流ターミナル 取扱能力51,000→69,000 T E U リーファープラグ77→107 H31.3.16 上北天間林道路・上北 I C ー 七戸 I C 間 開 通		平成30年度衛星 A I S データを活用した北極海航路航行船舶の実態把握・分析調査実施
5年間継続 した取組	八戸港国際物流ターミナルの機能強化（コンテナヤードの拡張・舗装整備、ガントリークレーン延命化、リーファープラグ増設）	八戸港国際物流拠点化推進協議会として、毎年度、コンテナ航路誘致のためのポートセールスを実施（韓国、台湾、中国、東南アジア、アメリカ等）	

2 成果と課題

5年間にわたりロジスティクスに係る取組を推進してきた結果、A!Premium流通サービスの開始を始めとした様々な成果が得られた一方で、解決すべき様々な課題も浮上してきました。

本戦略では、成果については更なる推進を、課題については着実な解決を図っていく必要があることから、成果と課題について以下のとおりまとめています。

○：成果 ●：課題

取組項目		成果と課題
取組 1	物流・流通事業者などによる輸送プラットフォームの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○青森県総合流通プラットフォーム「A!Premium」サービス開始 ○A!Premiumの利用個数は順調に増加中 ○A!Premiumを契機としてA!Premium以外の輸送手段で出荷される県産農水産品の増加 ●集荷・持込時間の後ろ倒しなど持続可能なサービスとして確立させるためのサービスレベルの向上 ●中ロット以上の荷物を効率的に輸出するための仕組みづくり ●一次加工などA!Premiumに関わるロジスティクス全体のレベルの底上げ

取組項目		成果と課題
取組 2	各種輸送トライアルによる物流課題の改善と新たな流通経路の確保	○将来的なトラックドライバー不足を見据えた、RORO船やJ R貨物を活用したトライアルの実施 ○トライアルを踏まえた民間企業による事業化や営業強化 ●八戸港を利用する場合のリードタイム ^{*20} の長さ ●ロジスティクス面における青森空港の利活用の推進
取組 3	地域における共同輸配送に向けた取組の支援	○物流の効率化、高付加価値化に係る補助制度の創設 ○この補助事業を利用し、ビジネスベースでの共同輸配送や3 P Lの取組が開始 ○県内企業間で物流連携を推進する機運向上 ●荷主企業と物流事業者との連携による輸配送等の効率化 ●共同輸配送や3 P Lの重要性に係る認識の向上
取組 4	ロジスティクスに係る人財育成・企業支援	○マーケットイン ^{*21} の思考により、県産品の国内外への出荷を始めたサプライヤーの意識変革 ○木造高校との連携による海外輸出の取組推進 ●一次加工等ロジスティクスの底上げを図るための人財や企業の育成
取組 5	輸出における最適な輸送手段の検討と具体化の支援	○(再掲) 将来的なトラックドライバー不足を見据えた、RORO船やJ R貨物を活用したトライアルの実施 ○大韓航空を利用した輸出トライアルの実施 ●オーダーメイド型ではなく、ラスト1マイルまでパッケージ化された輸送手段の構築
取組 6	物流インフラの整備	○八戸港におけるコンテナ取扱量は4年連続で5万TEU超え ○八戸港国際物流ターミナルの機能強化 (取扱能力：51,000TEU→69,000TEU、 リーファプラグ(冷凍コンテナ用電源)：77→107) ○主要幹線道路(津軽道、下北半島縦貫道路、上北天間林道路)の整備促進(一部区間開通) ○八戸港LNG輸入基地運転開始
取組 7	効果的なポートセールスの実施による定期航路の充実	○八戸港における韓国航路の開設 ●北米航路の運休は継続中 ●陸上輸送と比較した場合の内航輸送リードタイムの長さ
取組 8	北米航路や北極海航路の本船寄港可能性の継続的研究	○北極海航路を航行する船舶の動向については、5年間にわたり継続して把握 ●青森県への寄港に向けた具体的な取組についての検討が必要 ●JAXA、国総研、北海道開発局、北海道大学等との今後の連携の在り方についての検討が必要

3 青森県総合流通プラットフォーム「A!Premium」

青森県総合流通プラットフォーム「A!Premium」とは、本州最北端に位置するという地理的不利条件を克服し、国内外に誇れる素晴らしい県産農水産品を、鮮度を保ったまま中部以西や海外に届けることを目的として、ヤマト運輸株式会社との連携により始めた新しい流通サービスのことです。

航空機を活用したスピード輸送と、保冷一貫輸送(クール)を両立させ、国内の約9割の地域には翌日午前中に配送可能となったほか、海外へも最短翌日配送が可能となりました。

2015(平成27)年4月のサービス開始以降、水産関係(市場、漁協等)を中心とした県内事業者から、県外、海外の飲食店向けに、主に活ホタテや鮮魚が出荷されており、利用実績は着実に増加しています。

さらに、A!Premiumの営業をきっかけとして、野菜、果実、冷凍品、加工品等、A!Premium以外の輸送方法でも輸送できる食材についても取引が広がったほか、中ロット向けの取引や、ヨーロッパ向けの販路開拓の動きが始まるなど、ロジスティクス課題の解決による更なる取引の拡大も期待されているところです。

A!Premiumは、単なる物流手段の提供ではなく、通関、決済、信用保証など、特に輸出に際しての事業者支援のサービスも充実しており、小規模事業者が輸出に取り組む際の第一歩としての活用にも適していると考えられます。

プラットフォームのサービス

POINT! 翌日午前中配達エリアを大幅に拡大し
西日本への販路構築を支援

POINT! 鮮度、品質を維持したスピード小口輸送
により継続取引を支援

POINT! アジア圏への最短翌日配送



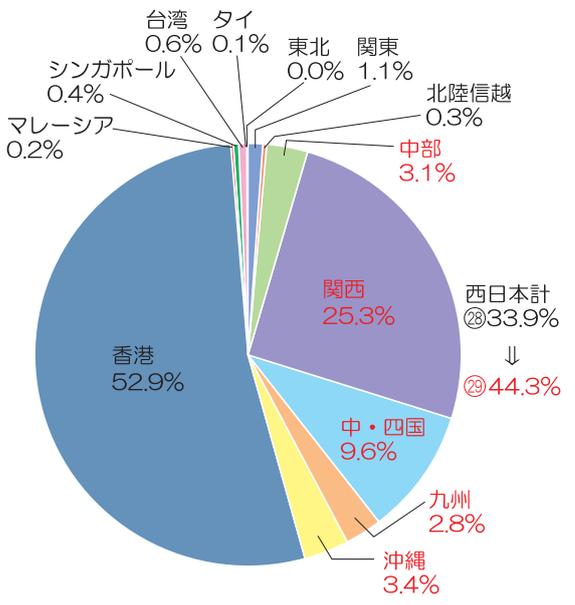
ASIA
香港・台湾
マレーシア
シンガポール
タイ

A!Premium利用実績

利用実績の推移



仕向先内訳 (2017 (平成 29) 年度)



青森県総合流通プラットフォーム「AIPremium」の取組

○AIPremium第1便出発式の様子



○トラックにコンテナを積み込む様子



○取引先による産地訪問の様子



○AI Premiumの主力商材である鮮魚ボックス



○国内展開事例（青森ねぶたワールド（神戸））



○海外展開事例（千両寿司（香港））



【用語解説】

- ※15 RORO船・・・Roll-on Roll-off 船の略。船体と岸壁を結ぶ出入路「ランプ」が搭載されており、トラックやトレーラーが自走でそのまま船に乗り（ロール・オン）降り（ロール・オフ）でき、かつ、その車両をそのまま運搬できる貨物用の船舶のこと。
- ※16 YNA（ヤマトナチュラルエアカーゴ）・・・温度を一定に保つ独自の資材と特殊梱包をパレット単位で行い、最終目的地まで温度管理を行った状態での輸送を可能としたヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社の海外輸送サービス。輸送は一般貨物扱いとなるため、保冷コンテナでの輸送時と比較してコストも低い。
- ※17 中ロット・・・本戦略では概ね200kgから500kg程度の荷物を指す。
- ※18 ポートセールス・・・船舶や貨物の誘致のため、誘致の目標とする船社等に対して、当該港湾を利用するメリットの説明を行うとともに、船社等のニーズを把握するためのセールス活動。
- ※19 AISデータ・・・Automatic Identification System データの略。船舶同士の衝突予防、通過船舶とその積荷情報の把握及び船舶運航管理業務支援を主な目的として、船舶に搭載されている自動船舶識別装置のこと。現在では、人工衛星を活用する衛星AISの普及により、世界中の船舶の位置やスピードといったデータの収集が可能となっている。
- ※20 リードタイム・・・生産・流通・開発などの現場において、発注から納品までに必要な時間のこと。
- ※21 マーケットイン・・・商品の企画開発や生産において消費者のニーズを重視する方法。